

第66回市民大会サッカー競技実施要項（小学生）

- 1 期 日 令和 2年 1月11日(土)12日(日)
予備日 1月18日(土)19日(日)
- 2 会 場 南グラウンド
- 3 参加資格 尾張旭市内の小学生で構成され、成人の責任者がいるチーム
- 4 登録人数 1チーム16名 ※1団体で2チーム（A・B）まで登録できる
- 5 試合形式 8人制 1日目 3チームごとのリーグ戦
2日目 4チームによるトーナメント戦
- 各グループ1位の3チームと
2位の中で成績が一番上位の1チーム
- 6 試合時間 1日目 15分ハーフ（ハーフタイム5分）
2日目 20分ハーフ（ハーフタイム5分）決着がつかない場合はPK戦
決勝戦のみ5分5分の延長戦を行う。
- 7 競技上の規定
- (1) 競技規則は2012年に出された日本サッカー協会「8人制サッカー競技規則」に準ずる。※11人制と同じ規則のところは2018年の日本サッカー協会「サッカー競技規則」に準ずる。
- (2) リーグの順位決定については「11確認事項」を参照する。
- 8 監督会議 令和元年12月4日（水）午後5時30分～中央公民館
- 9 その他 (1) 審判はサッカー協会と参加チームで行う。
(2) 試合延期の場合、午前6時頃に尾張旭サッカー協会ホームページの連絡掲示板に掲載する。
- 10 問い合わせ先 サッカー協会庶務 中島学路 ☎090-2946-7594
- 11 確認事項
- (1) グループ内の順位決定は勝ち3点、負け0点、引き分け1点とし次のようにする。
勝ち点 → 得失点差 → 総得点 → 直接対決 → 抽選
- (2) 各グループの2位の中での順位決定は次のようにする。
勝ち点 → 得失点差 → 総得点 → 抽選
- (3) 11人制と違うところ
- ・ 交代は交代ゾーンから自由にできる。
(GKはアウトオブプレーの時に主審の承認を得てから)
 - ・ キックオフからの直接得点はできない。
 - ・ 退場者が出ても競技者を補充できる。
 - ・ PK戦は3人ずつ行って、その後サドンデス。
- (4) 第1試合のチームはゴール・ベンチなどの設営を行う。
- (5) 当日の朝、メンバー表を提出する。(このメンバーで2日間を戦う)
- (6) グラウンドにあるテラスは1校1か所とする。

- (7) 開会式は第1試合のチームが参加する。その際、ベンチコートなどを着てもよい。
選手宣誓の選手は、宣誓する時はベンチコートなどを脱ぐ。
- (8) Aチームは、秋の中小体連主催の大会で上位3位までに入ったチームをシードとし、
A1・B1・C1に入れる。(優勝：本地原小 準優勝：三郷小 3位：白鳳小)
- (9) A1 A2 B1 B2になったチームから抽選で選手宣誓を行うチームを決める。
- (10) コート内でのアップは、1試合目は8：45～8：50とし、2試合目以降は試合
が始まる前のメンバーチェックまでとする。
- (11) 装飾品ははずす。(ミサンガもはずす)
- (12) つめをきっておく。
- (13) FPとGKの交代は、ユニホーム交換でよい。
- (14) メガネ使用の場合はスポーツ用メガネゴーグルとし、固定する。
- (15) 靴は運動靴でも可とする。
- (16) インナーの色はシャツ・スパッツ・タイツそれぞれの色がチームでそろっていれば
よい。
例：チーム内で身につけている人が、インナーシャツが白・スパッツが青・タイツ
が黒でそろっていれば○
- (17) ベンチにいる控えの選手にはベンチコートを着せるなど、出場選手と区別がつくよ
うにする。
- (18) ベンチには監督1名、コーチ3名、選手16名までが入ることができる。
- (19) レッドカードは次の1試合出場停止。イエローカードは累積2枚で次の1試合出場
停止。(2日目も持ち越す)
- (20) 決勝トーナメントの組合せ抽選は、各リーグで1位になったチームからくじを引く。
- (21) PK戦の場合、1度ベンチ前に戻ってよいが、コートの外にはでない。
(決勝戦の延長戦後のPK戦は1度ベンチで休ませる)
- (22) 審判は、主審1人・補助審1人とする。
- (23) Bチームの表彰は、Aチームが決勝・3決に残っていれば、最後と一緒にいる。A
チームが残っていない場合は、Bチームの決勝・3決後すぐに行く。
- (24) 最終試合のチームはグラウンド整備などを行う。
- (25) 駐車場に駐車できなくても、路上や「ふらっと」などに駐車しないように保護者に
伝える。
- (26) 応援マナーについて保護者に協力を依頼する。

子どもたちが自分の判断でサッカーを存分に楽しめるように、
プレーに関する指示は監督、コーチに任せる(プレーに関する指示はしない)
ジャッジは審判に任せる(審判のジャッジを批判しない)
子どもたちに励ましや賞賛の声をかけてほしい。(子どもたちを罵倒しない)

- (27) 応援マナーの守られていない保護者がいる場合は、その保護者の子どもが所属する
チームの関係者から注意をしてもらう。